

1. 目的

近年国内縫製業界は、中国を始めとするアジア諸国からの低価格品の台頭により、工賃の引き下げ、受注の減少等の悪循環に巻き込まれて久しい。低価格競争の末、閉鎖を余儀なくされる工場が相次ぐ等、職場としてのイメージダウンも重なり、かつてのような高い技術を持った縫製労働者は激減していると言われ、これまでの製品の質を保つことが難しい状況が生じている。

縫製技術が未熟なために起こる問題の一つに、紳士服上衣の型くずれがある。その中でも、商品の店頭展示時、或いは消費者着用時に、左右前身頃が開いたり、ボタンの位置から左右両前見頃の裾の部分にかけて、型くずれを起こす現象(図1)は、これまでは縫製技術で抑えることが可能であったが、縫製技術が低下した現在では、困難になった典型的な事例である。また、この背景には、前身頃の裏側に付ける芯地が、接着芯地の大量普及で、縫製技術を必要としなくなった現状があると考えられる。

そこで、高度な縫製技術が無くても、型くずれの少ない製品にするため、形態記憶加工技術を応用して、春夏用紳士服上衣の試作を行った。



図1 展示及び着用時の型くずれ例

2. 方法

2.1 材料

表地：ウール100%、高級紳士服春夏用

裏地：ポリエステル100%

芯地：綿/ウール擦合わせ×獣毛100%(経糸×緯糸)

〔繊維製品製造業A社製〕

2.2 芯地の形態記憶加工

繊維製品製造業A社内で行った。

図1に示したように、左右両前見頃が外側に開きやすいので、芯地はそれと逆向き(内側)になるような形状に加工した。

2.3 縫製

縫製製品縫製業B社に依頼し、紳士服上衣の縫製を行った。

加工した芯地を使用する以外は、縫製工場において、通常と同一の流れ作業の中で縫製した。

3. 結果

図2に試作完成品を示す。

展示時、着用時、いずれの場合も図1で示した、両前見頃が開いたり、型くずれする現象は起こらず、き



(a) 展示

(b) 着用時

図2 試作完成品

ちんとした印象で、見栄えのする紳士服となった。

4. 今後の展開

今回春夏用紳士服の試作を行い目的としたものが完成したが、素材や厚さ、堅さ等多種多様な表地と芯地の組み合わせによって、形態記憶加工の効果が異なるものと考えられる。相性の良い組み合わせデータの構築を図りつつ、秋冬用の試作についても検討する予定である。